



Review

古典を題材にした現代人形劇化は、人間の本性が凝縮されていて面白いのですが、集客は難しいのが現状です。そんな中、昨年『往生要集』を著し極楽浄土信仰を広めた源信の千年遠忌を迎え、各地で曼荼羅図、六道絵図、弥陀聖衆来迎図等の特別展、熊野比丘尼の絵解きなどあり、今回の『小町曼荼羅』（作・演出：木村繁）はタイトルも含め身近に感じられました。舞台は地獄極楽曼荼羅図を背景に、上手に常磐津の付け舞台、具象的な装置はなくシンプル。顔のみ出した黒子の俳優たちが熊野比丘尼となり、三途の川に佇む白装束の老婆が小町であることを現代語り

で絵解きを始めると、それが物語の伏線となって芝居にわかりやすさと統一感を持たせました。小町は絶世の美女と言われるが故に、人形の頭（かしら）には目・鼻・口が無く、観客個々が小町の顔を想像しながら小町像を生み出すこととなります。そして、その小町の心情は実は観客自身の感情が生み出したことに気づくと、より楽しめるのが人形芝居。ただ、小町の頭後に黒子のむき出した顔が重なるど現実と引き戻されて勿体なかったのも事実。黒子でよかったのではないのでしょうか。他の人形は頭に表情あり、言い寄る公家たちは鳥獣戯画に出て来そうな動物たちに鳥帽子をつけ、キャラクターを明確に造形され見やすい。和服地の人形の衣装は優美で、特に小町が落ちぶれ後悔の念を抱く白禰姿は逆に色気が増し、その裾からはエロスから逃れられない人間の本性を描きます。さらに等身大の禰姿だけの遣いは、小町が肌をさらけ出し、祈りとともに激しくもがく姿を想像させました。艶やかな網罟の語りで人形たちが動き出しますが、狭い蹴込みにもが



小町曼荼羅

愛知人形劇センターPresents「小町曼荼羅」
美女伝説にひそむ穢れに迫る三味線弾き語り人形劇
（愛知人形劇センター・ひまわりホール30周年プレ制作）
10月27日～29日公演

人形劇団クラルテ 東川次登

人形劇団クラルテ団員。クラルテ創立60周年記念作品『火の鳥-黎明編』（2008）や『ハムレット』（2001、2017）、『TEN-AMI「心中天の網島より」（2004）、『しのだづま』（2011）、『新・動物農場』（2012）、『冥途の飛脚』（2016）など、内外の大人向け作品を多数脚色・演出。執筆プロフィール



三味線・語り・人形遣い、三業一体で捧げた『小町曼荼羅』

き、語りに呪縛された様に見えました。それが百夜通いを前に息絶えた深草少将の怨霊と小町の狂乱の場となるや、三味線・語り・人形遣いが三業一体となり、呪縛から解き放たれ自由に動きまわり「舞う」ているよう。この「舞う」は踊りではなく神懸かり的というのが相応しい、人形遣いの見せ場でもありました。説経節の芸能者たちが人形と結びつき仏教を広めていた元禄時代、人々は人形に神仏を重ね、その舞いに享楽と救いを求めて癒やされていました。不寛容な今の時代だからこそ、このような人形芝居に出会って欲しいものです。



REPORT

多彩な表現ジャンル! 楽しさ色々! 子どもアートフェスティバル2017

今年の子どもアートフェスティバルは10月8日・9日の2日間で、人形劇、影絵、ダンス、演劇など多彩なジャンル合わせて24作品公演。各会場は、幼児から高齢の大人までが詰めかけ、拍手と大きな笑いに包まれました。以下、ジャンルの異なる公演についていくつか紹介します。人形劇団すずきじゅく「ブレーメンの音楽隊」は女性3人編成の人形劇。舞台は、前と後ろに3分割された二重のケコミを使用。主人公ロバを3人で操り、ひづめで音を楽しく出す動きが印象に残ります。犬、ネコ、ニワトリの表現も個性があり、子ども達から何度も笑いが起きるほどでした。舞台の使い方も変化があり、どれもアマチュアではなかなか出せないクオリティーです。クライマックス「ここで自分たちのブレーメンを作るう!」でさらに盛り上がりを出せば、かなり見応えある作品に。

手風琴「いったりきたり」はパネルシアターで、酒井利幸が自作自演で行うもの。前置「何がでてる?」は、平面図で登場したものをつまんで引き上げると立体になる驚きの仕掛け。どの作品もそうですが、「いったりきたり」も酒井利幸の歌とコミカルなダンスが入ります。「いったりきたり」をテーマに、テニスボール、綱引き、中華料理、海の魚とテンポよく展開。フィギュアの工夫と展開の意外性に終始感嘆と笑いが入り交じりました。演技と構成のさらなるチャレンジが望まれます。

ましゅ&Kei「カプリッチオ」は、男女二人で行うバントマイム的コメディ。演奏会に二人がハンドベルで出演するという設定。最初から演奏までハプニングの連続。後半のハンドベル演奏では、鬼ごっこ、スローモーション、マジックなどマイムの見どころ満載。クライマックスはテンポの速い「カルメン」の曲で観客を感動させました。マイム表現の一挙一動に

News P新人賞2017 最終選考作品 決定!!

P新人賞2017第一次選考会が終了しました。今年、9作品の応募があり、10月10日の第一次選考会に於いて、以下の団体が2018年2月17日(土)・18日(日)に開催される最終選考上演会へ進むこととなりました。P新人賞最終選考上演会は2日間2ステージの上演です。選考会は公開にて、2月18日(日)上演終了後、引き続き行います。皆様のご来場をお待ちしています。

- 【最終選考上演会】
2018年2月17日(土)・18日(日)
- 【上演団体】
- ★オレンジスタ(愛知県)
- ★児玉真理(神奈川県)
- ★トランク機械シアター(北海道)